

令和4年度 第1回図書館協議会議事録

1 開催日時 令和4年5月20日(金) 午後2時～午後4時

2 開催場所 牧之原市立図書交流館いこっと

3 出席者

【牧之原市図書館協議会委員】(1名欠席)

鈴木 善彦
水嶋 みゆき
岩崎 陽子
佐藤 寛
鈴木 亜弓
杉本 公恵
武田 てるみ

【事務局】

教育長	橋本 勝
教育文化部長	内山 卓也
社会教育課長	永野 智芳
図書館長	杉村 明彦
図書係長	八木 いづみ
総括主任	元木 香代
係総括主任	水野 秀信
会計年度任用職員	芹澤 芳里

4 傍聴者 4名

5 議題

【報告事項】

- (1) 令和3年度の実績について
- (2) 令和4年度の事業について

【協議事項】

- (1) 榛原図書館改修の設計について

6 内 容(要点記録)

【報告事項】

- (1)令和3年度の実績について
- (2)令和4年度の事業について

◎事務局説明要旨

・令和3年度の実績

図書交流館と榛原図書館、移動図書館の実績を令和2年度と比較し報告。図書交流館は令和2年度に比べ、大幅に来館者が増加した。榛原図書館は横ばい、移動図書館はコロナの影響により、貸出数の減少が見られる。

・令和3年度の事業

牧之原市立図書館で行ったイベントを報告。図書交流館は官民複合施設のスペースを活用した講座等を開催した。また、例年に比べ多くの小学生等が見学に訪れた。

◎委員からの主な意見

(意見)企画・イベントが多く、アイデアが素晴らしかった。読書ノートを配布していたが、紙一枚だったので簡素に感じた。また、移動図書館の本が窮屈で、本を積み上げていたり、書架でなくコンテナに本が詰められており、つまずいてしまう危険もあるため改善してほしい。

(市回答)読書ノートは一冊完成させた喜びを味わってほしく、完了したら次のノートを配布するという形をとっていた。次回開催する時にまた検討したい。移動図書館には乗せられる冊数に上限がある。手狭ではあるが、安全・快適に利用できるよう改善したい。

(意見・質問)子どもと一緒に図書交流館のイベントを楽しんだ。図書交流館は今までと違う、人が集まる企画が考えられている。一方で、榛原からだ子供だけのアクセスが難しい。榛原図書館や勝間田会館などから図書交流館までバスの送迎などが可能か。

(市回答)大きな事業など開催する場合にバスをチャーターする例もある。イベントの一つとして検討したい。榛原図書館の整備もあるため、互いに行き来しやすい工夫をしたい。

(意見)小学校2・3年生は図書館探検の学習時間を設けており、バスの確保はありがたい。昨年度、川崎小学校の図書館見学を行った際、利用者カードがないと申し出たが実際には作成してあった例が多く見られた。図書館へ足が遠のいているように感じるので、貸出・返却のサイクルができるよう、学校からも活用をすすめていきたい。

(質問)勝間田小学校で公園について考える授業で児童から公園で本を読みたい、公園を図書館のように活用したいという意見があった。移動図書館が公園に来て、借りた本を読むよ

うなイベントをすることはできるか。

(市回答)運行できる回数が年間で決まっているが、4月に図書交流館で行った乗車体験のように、イベントとして開催することは可能なので検討したい。

◎事務局説明要旨

・市図書館基本計画の実施状況について

令和4年5月時点での進捗状況を説明。昨年度に比べ、蔵書の増加、講座やイベントの開催等がさらに拡充された。また、読書推進に関わるボランティアを市民活動団体として組織化し、市民協働の図書館作りを推進している。

・令和4年度図書館事業について

今年度は図書交流館で約 6,000 冊の図書を購入する予定。榛原図書館と移動図書館は例年通り。国の交付金を活用し、榛原図書館のIC化が進められるか検討中。

◎委員からの主な意見

(意見)利用者を支えるレファレンスだが、このサービスを知らない人がいる。また、職員が忙しそうで声がかげづらい。名札に「なんでも聞いて下さい」などと書いてPRしたらどうか。

(市回答)先ごろ、職員の名札の名前表記を漢字からひらがなにして、誰でも職員の名前がわかり親しみを持てるように変更した。PR 方法について今後検討したい。

(質問)「よもーね！マキノハラ」は、読み聞かせ14団体と個人活動をする運営サポーターの、100名以上の人が集まっている。運営サポーターは、館内でのおはなし会、資料整理、環境美化など内容も決まっているとのことだが、特におはなし会についての進捗はどうか。

(市回答)先日ボランティア保険の加入手続きが完了した。サポーターの活動は図書交流館からスタートできるよう準備している。始めは資料整理など、取り組みやすい内容から順次受け入れていく予定である。

(意見)図書に関わるボランティアは、「市民協働」の図書館作りのシンボル。ボランティア団体・サポーターが結集した読書推進活動の支援に期待する。

(質問)他県からの視察があったが、牧之原市民の図書館の評価、意識の変化はあったか。また、交付金の活用による制限等はあるか。

(市回答)統計を見ると、図書交流館は本を借りる目的以外でも来館される傾向にあり、小規模図書館ながら多くの方が利用してくれている。また、総合計画の市民意識調査の中で図書館の機能充実・整備取組に関する項目が、令和3年度は約半数が満足という結果となり、以前と比べ大きく伸びている。交付金に関してはまだ検討段階だが、図書館への制限等はなく、榛原図書館もできる限り整備を進めたいと考えている。

【協議事項】

(1) 榛原図書館の設計について

◎事務局説明要旨

令和4年度に榛原図書館改修実施設計を行う。設計業者を選ぶにあたり、ただ図書館の面積を広げるだけでなく、機能やデザインが優れたものを選定するため、プロポーザル方式での選定を予定している。本協議会では、設計者に求める図書館のコンセプトについて意見交換をお願いしたい。

◎委員からの主な意見

(質問) エントランス前の風除室の扉は変更できるか。

(市回答) 風の入り具合や光の加減もあるため、入りたくなるような仕掛けができるか使い勝手等の確認をしたい。芝エリアについて意見があれば検討したい。

(質問) 外の芝エリアの改修は行うのか。

(市回答) 全体の予算を決め、優先度に合わせて提案していきたい。

(意見) 建物のスペースに限りがあるため、芝エリアも一体として考えてほしい。

(意見) 建物が優先というのはわかるが、計画を立てる際に芝エリアは全体像が決まっている中でどのような場にしたいかも含め、全体像での計画をお願いしたい。

(意見) 芝エリアは建物を建てられず、どのように活用するかは大きい問題だと考える。少し手を加えただけでは活用できないので、しっかりと予算を取り将来を見据えた構想を望む。

(市回答) 改修工事の主な部分図面の赤色で囲んだエリアである。芝エリアを建物として増築するような改修だと、莫大な事業費が必要となり、全体の事業に影響がでる可能性がある。工夫をしながら図書館の一部として、活用をしていくのは可能と考える。

(質問) 開架を広げるため、トイレを取り除くことは可能なのか。

(市回答) トイレの移転等、水回りの工事は莫大な費用がかかる。機械室には管理棟の機械が収められていて場所の移動が難しくこちらも使えない。子供や障がい者にも配慮し段差をなくしたり、衛生的で見た目も明るく改善できれば安心して使えるのではと考えている。閉架書庫及び作業場等青色で囲んだエリアは利用者が入れない部分のため、改修費用を抑え図書館機能の拡充に予算を充てたい。

(意見) 芝生広場の活用はいろいろ困難もあるようだが、1階全体が狭いのでぜひ増築し面積を広げる方向で検討願いたい。

(質問) 図書館のスペースが限られており機能をすべて盛り込めるか懸念されるが、どれくらいの面積になるのか。

(市回答) 利用者が使える範囲としては400～500㎡となる予定である。

(質問) エントランスに書棚を設置することはできるか。

(市回答) エントランスは災害時の避難路となり、固定する家具の設置は難しい。椅子やブックトラックなど動かせるものは検討したい。

(意見) 入口に少しでも蔵書があると雰囲気が変わる。印象の変化があるとよい。

(質問) 設計者に求めるコンセプトは図書交流館と同様なのか。

(市回答) 同じである必要はない。榛原らしく、市民に愛されるコンセプトにしたい。

(意見) 榛原図書館は面積が少ないが、ボランティア団体の活動できる部屋も欲しい。貸部屋が空いている場合だけでもよいのでボランティアが使用できるようにして欲しい。

(市回答) より榛原図書館の発展につながるようになればよいと考え、前向きに検討したい。

(意見) 牧之原市には図書交流館があり、もう一つ榛原図書館を整備する時に、市全体での図書館のバランスにも配慮してコンセプトを考えたい。

(意見) 図書交流館は従来の図書館のイメージとは違い、若い世代の発想が中心となってできたように思う。榛原図書館の整備を行う際にも、若い意見を取り入れ、次世代が使いやすい図書館を目指してほしい。

(意見) 図書館作りに関わった人たちは「自分が作った」という愛着を持つ。リニューアルするにあたり、開館するまでの過程で一人でも多くの市民が関われる仕掛けをお願いしたい。

(質問) 市民からアイデアを募り、意見を汲み取る時間的な余裕はどのあたりまであるか。

(市回答) 令和4年11月末に設計、令和5年工事、令和6年4月開館を目指している。学生等も含め、なるべく多くの方に意見を聞きながら整備に取り組んでいきたい。

(質問) コンセプトも大事だが、図書館協議会では以前他の図書館を視察して子どものフロアを大事にしてもらいたい、といった各論の意見もあった。コンセプトと各論の調整はどうするのか。

(市回答) 土台として市図書館基本計画があるので、この実現を目指す方向にしたい。コンセプトによって大きく機能が変わることということではなく、デザイン等に影響すると考えている。

(意見) 雨の日に室内で遊べる場が欲しいという意見を母親世代からよく聞く。雨の日でも楽しめる、公園のような図書館だとうれしい。子どもに限らず誰でも気軽に使えるとよい。

また、市内に駅が欲しいという若者の意見もある。図書館は想像をめぐらす拠点としての駅にもなりえるので、「駅」というキーワード、コンセプトはどうか。

(意見) 「子どもにやさしい図書館」とあるが、子どもはやがて大人になってゆく。大人になった若者にも文化と学びを伝えてほしい。世界に羽ばたく、外国の情報を学べるなどしてほしい。文化と学びを支える図書館がよい。芝エリアも明るい感じにし、遊びながら本を読めるような屋根のある場所になるとよい。

(意見) 図書館に読みたい本がなく、自分で購入することが多い。図書交流館が万人受けす

のような館を目指すなら、榛原図書館は一般的な図書館にないような専門的な本を揃えてほしい。マニアックな蔵書があれば、狭くても選ばれる館になると思う。

(意見)市民受けも必要だが、流行だけ追うのでは廃れてしまう可能性がある。図書館の基礎基本を踏まえた上で、特色のある図書館を整備してもらいたい。

(意見)教育の原点として、文化と学びは重要だと考える。榛原図書館に行った際、自分が中学生の頃に読んでいたような若者向けの本がないと感じたので蔵書も大切にしてほしい。

(意見)コインランドリーと一緒にしていると便利だと思う。雨の日に図書館で過ごしている間に洗濯物も乾いているとうれしい。

(意見)ゆっくり滞在したいので、食事ができる場所が近くにあるとよい。

(意見)市図書館基本計画を作る時に優先度が一番高いとした、ユニバーサルデザインの推進をまず進めてほしい。榛原図書館は暗い印象を受ける。カーテンや壁の柄・色を明るい色にすることで印象が変わると思う。子どもが自由に落書きのできる壁があるとよい。図書交流館は学習室を利用する学生が多く、学習室は必要に思う。また、職員の働きやすさも大切で、職員のパフォーマンス向上が市民サービスの向上につながる。

(意見)蔵書数を増やしてほしい。閉架書庫・作業場予定の青エリアを公開書庫にして、利用者が出入りできるとよい。

(会長による提案)多様な意見が出て絞るのが難しいが、次のように整理してみる。

①市民の学びと子どもの読書を支える図書館

②市民の居場所や居心地、交流につながる図書館

なお、継続して若い世代を含む多くの市民の意見や発想を取り入れながら進めてほしい。

(質問)前回の協議会で意見箱の設置をお願いしたがどのようになったか。

(市回答)意見箱はまだ置いていないが、イベントの際にはアンケートを取り、意見をもらっている。その結果を報告していく中で意見箱について検討する。

(質問)工事期間中の開館はどのようになるのか。また、プロポーザル選定委員はどのように決めるのか。

(市回答)他の自治体の事例では、臨時休館または予約資料受取の臨時窓口を開設している。榛原図書館では臨時窓口を開設できるよう検討中。選定委員については資料4にあるとおり、事務局で選定していきたい。そこで終わりではなく、11月まで設計者と協議しながら内容をつめていく。

以上